

顏氏家廟碑

780年(唐・建中元年)

碑法帖拾遺

木雞

木雞室
伊藤滋

碑額



(2)

碑陽

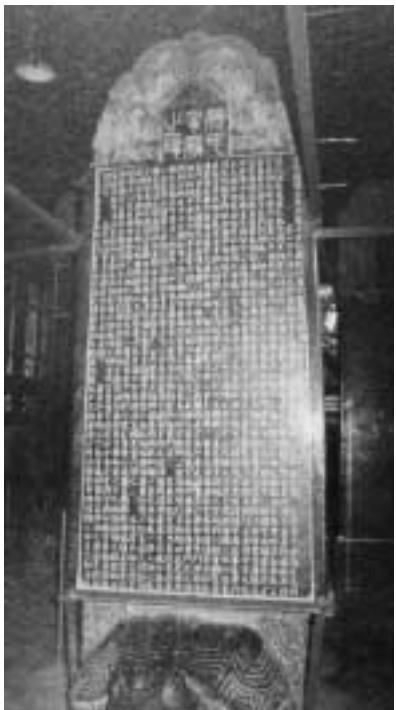


(4)



(3)

碑側



(1)

顏真卿は八世紀の後半において独自の楷書体を打ち立てた。盛唐第一の書家である。字画は太くて力強く、実に堂々とした書風である。俗に「顏法」と称せられている。八世紀の後半には顏真卿の筆になる多くの碑石が残されている。千年以上前に一人の書いた碑石がこれほど多く現在に伝わるのは非常に珍しい。今回からは、顏真卿の代表的な作品のいくつかを紹介しよう。

最初は、最晩年の傑作と伝えられる『顏氏家廟碑』を取り上げた。

この碑は現在、西安の碑林に安置されている。(図①) 碑額は李陽冰(りょうひょう)の手による篆書である。

(図②) 碑文は、顏真卿が文を作り自ら筆を執った。(図③) 碑陽、碑側、碑陰の四面ともに、力強く堂々とした顏法体の楷書である。碑陽と碑陰は文字の大きさがほぼ同じであるが、碑側の文字はやや小さい。(図④) 図版に示した顏氏家廟碑の拓本は、近代の日本書壇に大きな影響を与えた楊守敬の旧蔵本である。やや隸書風の題簽は楊守敬の自筆である。(図⑤)

舊 猶 顏 家 廟 碑



武帝有風格
皆書

書道藝術院 平成の書(2008)



第60回書道藝術院出品
「五木寛之のことば」

浜田一堂

(財)書道藝術院
理事



戦後展開された書道界、それぞれの部門、ジャンル、各会派の指導理念等々で広範囲に亘る変化、表現の多様化も進んできました。筆墨紙の業者の研究制作と相まって書表現の範囲も広まり深まり、書愛好家にとっても大変よい世状となってきた。

私が師事した加藤翠柳先生のお陰でこの道を歩んだことに感謝している。

これがキッカケで翌48年7月現在の日本詩文書作家協会が創立され現在に至って35年が過ぎた。

詩文の取り上げ方も表現も大きく変化しつつあるということです。

詩文の取り上げ方についても広まりました。

今回掲載した私の作品、五木寛之さんのことばです。感動し考えさせられるもので想いが、色々と思われるものです。

世代です。世の中です。書表現に豊かさをもって、堂々と主張すべき時代です。

種々通信機器が変化していく時代なればこそ、機械に振りまわされない、時代の書、それが「平成の書」ではないのかなと考えます。

新しい時代の書に立ち向っていきたいのです。

(竹筆使用した作品です。)

私が毎日展第二部（近代詩文書部）当番審査員をした昭和47年に参加当時のこと�이思い出される。

創玄関係二に対し、諸派が一という構成、入賞候補を出すにもそれが反映する。諸派の主張も創玄に消される。創玄の横暴に対しこのまではいかんと、怒った各派の上部の先生方に相談、香川峰雲先生、種谷扇舟先生、加藤翠柳先生、飯島春敬先生、國井誠海先生、近藤攝南先生、青木香流先生外に夜中に集つて頂き対応について語つたことを思い出します。

これがキッカケで翌48年7月現在の日本詩文書作家協会が創立され現在に至って35年が過ぎた。

詩文の取り上げ方も表現も大きく変化しつつあるということです。

詩文の取り上げ方についても広まりました。

今回掲載した私の作品、五木寛之さんのことばです。感動し考えさせられるもので想いが、色々と思われるものです。

世代です。世の中です。書表現に豊かさをもって、堂々と主張すべき時代です。

種々通信機器が変化していく時代なればこそ、機械に振りまわされない、時代の書、それが「平成の書」ではないのかなと考えます。

新しい時代の書に立ち向っていきたいのです。

書のひろば

理事長 恩地春洋

現代日本の書代表作家

台北展

毎日60周年記念事業 (2)

記念事業の一環として、海外展はサンパウロの外、台北において実施されます。院として10月3日を中心に二泊三日又は三泊四日の訪台を検討中です。

名称 現代日本の書代表作家台北展
会期 9・28(日)～10月8日(水)
会場 国立国父記念館、中山國家画廊、東走廊、西走廊
セレモニー 10月3日(金)(予定)
午前 14時30分～16時30分
シンポジウム 席上揮毫会 同 中山樓

〈特別見学〉

台北故宮博物院は、秋季特別展示の内覧会を「現代日本の書代表作家台北展」セレモニー出席者のため開放

(1) 展覽會名稱 「晋唐法書名蹟展」
(2) 内覧会 10・3(金)～10・9日
(3) 展示品 快雪時晴帖(王羲之) (木)

書譜 (孫過庭)
祭姪文稿 (顏真卿)
自叙帖 (懷素)

〈中央研究院歴史語言研究所〉特別見学も検討中

主催 每日新聞社 每日書道会

出品者 三〇〇名
作品 内容自由、新作未発表作品
出品料 五万円(表装代を含む)
〈院の出品予定者〉 20名

西林秉宣 小林琴水 種谷萬城
下谷洋子 石井明子 辻元大雲
尾形鼎山 坂本素雪 小竹石雲
砂本杏花 鳥山岳風 宮澤梅径
香川倫子 浜谷芳仙 嵐峨大拙
板垣洞仙 千葉蒼玄

毎日現代書巡回展はじまる
—神奈川・岡山・高知・奈良—

神奈川展に始まった毎日現代書巡回展は、解説会、揮毫会、講演会などを交じえて、西日本に移った。書道芸術院関係の皆さんも大奮闘。

岡山展 4・15～20 天神山文化アラザ、総務部長 小竹石雲

高知展 4・22～27 高知市文化アラザかるばーと

奈良展 6・4～8 實行委員長 大野祥雲
奈良県では始めて

日・台学生の揮毫

第60回記念全国学生書道展で特別賞受賞者のご優美「台湾見学の旅」での日・台青年交流の内容が固まった。

名称 日本・台湾学生揮毫大会
主催 全日本学校書道連盟
中国書法学会
場所 国立台灣科学教育館中央ホール
期日 8月2日(土) 10時～11時30分
揮毫者 日本 25名 訪台受賞者
台湾 約25名～30名

※ 第60回記念全国学生書道展 (東京都美術館)に、台湾学生優秀作品が参考展示される。

大きさ 日本 画仙紙半折1／2
台湾

日程 11時30分～13時 同館「御湘坊」
9時30分～11時 市内見学

集合

13時 解散
11時～13時 作品交換(片付け)
同館「御湘坊」
10時～11時 挥毫大会
日台交流昼食会(同じ卓で)

第60回毎日書道展日程

3月29日	審査部副部長・総務部副部長合同会議 総務部副部長・主任会議
4月17日	審査副部長会議・事務局合同会議
5月12日～14日	公募・U23未表装作品受付・搬入
5月19日	本部事務局開設(国立新美)
5月22日	審査員総会(新美講堂)
5月23日～25日	鑑別
5月27日	入選作品表装店渡し
6月13日	入落通知発送
6月16日	役員出品票締切(送付先=毎日書道会)
6月22日	本部事務局開設(国立新美)
6月22日～23日	役員作品搬入(東京都美)
6月25日	全会友・公募・U23の入選作品搬入 篆刻・刻字公募作品搬入
6月27日～29日	入賞審査(篆刻、刻字は鑑別から)
6月下旬	会友出品者新聞発表
6月30日	文部科学大臣賞予備選考会
7月1日	会員賞選考会
7月2日	文部科学大臣賞選考会
7月6日	会員賞新聞発表(予定)
7月7日	特集(入賞)入選者名(地域面)新聞発表 都美前期展開幕(かな、近詩、大字)
7月8日	日中女流書道家代表作品展祝賀会(精養軒)
7月8日～	関西展シール貼り(東京都美・期間中に)
7月9日～14日	新美第I期(かな、近詩、大字)通期あり
7月11日	第60回毎日書道展記念式典(GPホテル赤坂)
7月12日	表彰式(GPホテル赤坂)
7月13日	都美後期展開幕(漢字、前衛、刻字、篆刻)
7月16日～21日	新美第II期(かな、近詩、大字)
7月23日～28日	新美第III期(漢字、前衛、刻字、篆刻)
7月30日～8月3日	新美第IV期(漢字、前衛、刻字、篆刻)

前衛書 (二)

三森慧香

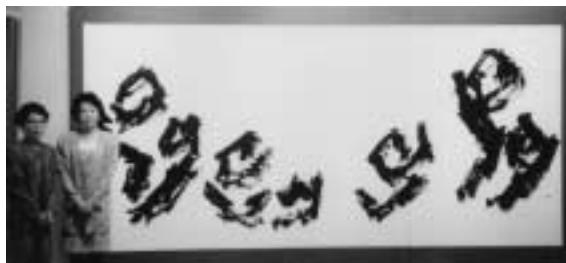


「作品2008-2」

23×35cm
三森慧香書

今回の枕は映画。モノクローム、カラーフィルムを問わない。たいへんな大所帯で映画作りは行われる。しかも編集を入れれば時間的にもすごいことである。大変であってすごいを言いたくて映画を枕としたのか? そうなのだが、迫力ある画面を使いたいからだ、そういう作品にしあげたい。もっと言えば3Dムービーのような、立体感も出してみたいなあ、と頭の中の、私の分身が常日頃、叫んでいると言うことも付記せねばならない。静止でありながら動きを予感させる。そして、動いてどこかへ行き去らずに、また元の位置にもどるような書でありたいなあと、大まじめに考えているのです。

ります。
私が得た大事な教訓のひとつであ
ります。
私は常日頃、叫んでいると言
うことを付記せねばならない。
静止でありながら動きを予感さ
せる。そして、動いてどこかへ行
き去らずに、また元の位置にもど
るような書でありたいなあと、大
まじめに考えているのです。



1993年書道芸術院秋季展
大作作品(香川倫子先生と)

21世紀の書

私の主張

漢字 (二)

有野玲扇



「時空」

180×90cm
有野玲扇書



「BIG BANG」 有野玲扇書

180×180cm

「われわれはどこから来たのか。
われわれは何か。われわれはどこ
へ行くのか」これは画家ゴーギャンの
ことばです。人間存在の根源的な意味
を問いかけたこのことばに深い共感を
覚えます。テーマを英語で「from
the UNIVERSE」と決めた
のは漢字の枠に囚われず自由な発想で、
この根源的な課題に迫ってみようと思つ
たからです。

宇宙や文明の起源に関する書物を読
み調べるうちに、心に響くいくつかの
キーワードが見えてきました。

一体、宇宙の始まりはどのようなも
のだったのでしょうか。百数十億年前、
超高温、超高密度の「BIG BANG」
(大爆発)によって宇宙が誕生し
ました。想像ではなく、天文学の目覚
しい進歩によって、その決定的な証拠
が発見されたのです。その大爆発と同
時に時間と空間が生まれたと考えられ
ています。中国、漢の時代の書物「淮南子」
にはすでに「字」とは空間であり、「宙」とは時間であると記されて
います。今も猛スピードで膨張してい
る宇宙、この壮大なドラマの始まりを
表現してみようと思いま
した。

第61回書道芸術院展〈続〉

都美三層での会場に熱気溢れる

実行委員長 辻 元 大 雲

会の受付にも一部委員のご協力をお願
いして大いに助かった。
部長はじめベテラン委員のおかげで
スムーズに遂行でき感謝申し上げたい。

(副部長 江本興舟・奥田瑞舟)

○搬出入部 (1月30日～2月12日)
11月30日の無鑑査・一般公募未表装
作品受付から、1月末の表装済み作品
受付整理を1点の狂いもなく処理。バーコード出品票によるコンピュータ処理
は正確。リンクス社の担当との連携も
スムースで、作業量はかなり軽減され
た。但し撤回日は表彰式、祝賀会と重
なり、正副部長は帝国ホテルに参加で
きず申し訳ないことがあった。

(部長 東福青草)

(副部長 上柳佳規・田村鄭雲)

昨年の創立60周年記念事業を無事に
終え、ほっとする間もなく61回展の諸
準備が始まった。6月中旬の全国学生
書道展審査日があわせ、第61回展運営
委員会を開催、展覧会の基本的な体制
を検討、ほぼ前回展と同様とすること
を決定。特別賞選考委員、当番審査員
及び各部委員の決定を行った。出品票
のバーコード化も2年目となり更に改
善され、出品要項の体裁も大きく変更
した。担当のリンクス社との連携で発
送体制も外部委託するなど、種々の改
善を行った。出品目録には財団役員の
ほか上位入賞作品写真約90点掲載して
充実させ、参観者の便宜をはかること
とした。会場にて販売する作品写真も
デジタル撮影によるカラー写真となり
価格も低減された。

以下各部ごとの実施状況につき報告
する。

○総務部 (1月30日～2月11日)
8月末に行っていた要項発送は今回
展からリンクス社に依頼したため総務
部は11月30日の作品搬入から業務開始
となり作業はかなり軽減されたが、案
内状発送、作品搬入整理、鑑別審査、
都美搬入、特別賞選考、陳列など各部
署との連携作業が多くまた期間も長く
大変ご苦労いただいた。表彰式・祝賀文
書のほかは1日で全て終了。特に審査

○審査部 (12月7日～1月31日)
昨年の出品票バーコード化による大
幅な事務軽減は更に改善され、特に漢
字部、現代詩文書部では審査遂行の上
で機能を發揮することになったが、ま
だ充分使いこなせない面もあった。

審査会場は昨年同様共和会館の2、
3階をお借りし、無鑑査担当35名、
一般公募担当35名、審査事務担当計70
名、審査部、総務部あわせて18名、總
勢160名余が1～2日間かけて行った。

○陳列部 (2月5日～2月11日)
昨年会場が2割増となり、記念展も
盛大に開催されたが、本年は5・5室
B1から2階まで重層化となり、作品
配置に更に工夫が要求された。幸い作
品管理をコンピュータ処理できている
ことから各部屋ごとの平均した配分が
できており、現場での若干の調整で配
列が行えたことは大いに助かった。陳
列台帳は昨年通りで、冊数を増加して
各階に配置、参観者の便宜を図った。

(部長 福島李舟・前田まさ美)

(副部長 宮澤梅徑)

○外部評論家の眼
前回は3名の方にお願いしたが、今

大変ご苦労いただいた。表彰式・祝賀文
書のほかは1日で全て終了。特に審査

部の作業は軽減され余裕の審査会であつ
た。

(部長 金井如水)

(副部長 外処思水・藤田翠峰)

特集：第61回書道芸術院展

○記者会見（2月6日 都美）

会期初日10時より毎日新聞社ほか報道機関及び評論家の方々にお集まりいただき、都美会場第1室にて開催。恩地理事長より基本的な説明を行い、配布資料をもとに辻元大雲常務理事から具体的な説明を行った。参加は15名ほどでほぼご案内した各社の方にご出席いただいた。

（担当 恩地春洋・辻元大雲）

○表彰部（2月11日 帝国ホテル）

昨年に続き帝国ホテルでの表彰式は落ち着いた雰囲気で行われ、受賞者にとりそばらしい式となつた。会場の関係から午前9時半より受付、10時開式は受賞者はもとより係り担当の方々には早朝からご参集いただこととなりご負担をおかけしたが、受付から座席配置、進行などスムースに行われた。昨年の反省をいかし院関係者の席や受賞者のお仲間の席も用意でき、余裕ある会場となつた。受賞者は特別賞、無



祝辞・寺田専務理事

鑑査特選以上と一般公募準特選まで個別授与で、秀作、佳作、褒状は代表授与とさせていただき、時間も40分余りで終了した。次回からは秀作、佳作の方々



〈謝 辞〉



〈峰雲賞授与〉

○作品研究会（2月10日）

本年も講堂が使用できず会場内で表彰式前日の10日に行う。幸い日曜日で例年以上の大勢の参加があり、会場の第1室に溢れんばかりの盛況であった。恩地理事長の基調解説で約1時間、大作、幹部役員作品を中心として峰雲賞、同候補作品などにつき作品傾向と今後の課題なども含めお話ししいただいた。

（副部長 小川弘舟・麻生峰扇）

（査主任・副主任）



〈恩地理事長解説〉

○祝賀会部（2月11日 帝国ホテル）
今回は会期最終日となり表彰式に引き続き正午より開会。ご来賓は毎日新聞社はじめ報道関係、評論家の方々のみ30名余り。会員あわせて560名の参加であった。



〈作品研究会・会場にて〉

も個別授与にできるよう検討したい。
ご来賓として（財）毎日書道会寺田健一専務理事より賞状授与並びにご祝辞を賜つた。受賞者代表謝辞は大賞受賞者嶋田麗雲さんが述べた。

（担当 恩地春洋・辻元大雲・各部査評も交え充実した研究会であった。
（副部長 小川弘舟・麻生峰扇）
（査主任・副主任）
た。時間が不足気味でやや残念であった。その後各部資格別に分散してそれぞれ査主任、副主任の解説、進行で会場内を回りながら行う。作品個々の批評も交え充実した研究会であった。

特集：第61回書道芸術院展

辻元大雲常務理事の開会のことば、恩地春洋理事長の主催者挨拶に続き来賓祝辞を、毎日新聞社常務執行役員常田照雄様、書道評論家田宮文平様より



〈ご来賓紹介〉

いただき、（財）毎日書道会専務理事寺田健様の御発声で乾杯、開宴となつた。恩地理事長の挨拶の中で今回特にご臨席をお願いした昨年お世話になつたオーストリア元大使の梅津道雄様、アイルランド元大使、現外務省官房長の林景一様のご紹介とお礼の言葉をのべ、お二人からそれぞれご挨拶もいた。

雨城先生より壇上での挨拶をいただき、南関東総局千葉の村山元信先生の文部科学大臣定期通信教育功労者表彰受賞、東北総局宮城の板垣龍鶴先生の地域文化功労文部科学大臣表彰、北関東総局群馬の大井美津江先生の群馬県文化奨励賞知事表彰の紹介があつた。

その後61回展峰雲賞、大賞はじめ主要入賞者が紹介され、大きな拍手で慶祝した。開会の言葉は浜谷芳仙常務理事の力強い挨拶で締めくくり幕を閉じた。

（副部長　石井明子・白石和楓）

宴半ばより各種受賞者の紹介、はじめに北海道支局より全道書道展で2回目の文部科学大臣賞を受賞された齋藤



〈ご来賓・あいさつ〉

評 論 家 の 眼

現代詩文書部
坂本素雪



「尻屋崎（岡部晋一詩）」

田宮文平の眼

・横形式に行間をたっぷりとての六行の書。北の海の実景を知っている書者の（目）が詩情を奏でる。墨色と紙の調和もみごとだ。

小野寺啓治の眼

・線の使い方によじれた味を出し、形には巧拙の気ままさが同じリズムをとらずに、つぎつぎと変化して歩む。この変身振りが斬新だ。

評論

田宮文平 の眼

「連桜」

- 高さを生かした中央部の一行の展開が絶妙である。用筆も正統で、墨色の濃淡の使い方もみごとだ。最後の「遅さくら」の余情もよい。



かな部 黒川江偉子

「鍛牛無骨」

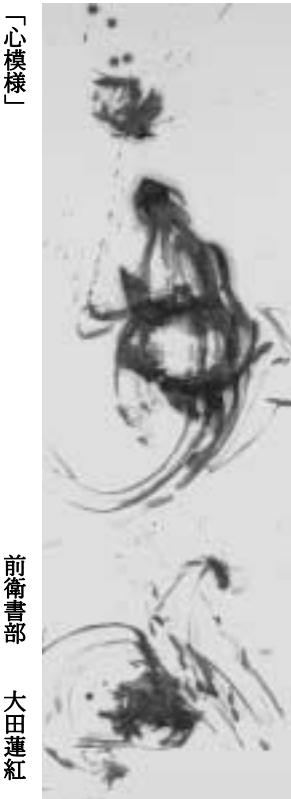
- 古典文字を生かした造形が書として素晴らしい。「牛」フトコロの広さも一つのポイント。刻また豪石で、色彩も生きている。



篆刻・刻字部 加藤如石

前衛書部 嵐嶽大拙

- 文字のような、文字でないような形がつづくが、筆致はまぎれもなく（書）のものである。リズム感もよく、広大の空間も生きる。



前衛書部

大田蓮紅

「公孫丑章句」

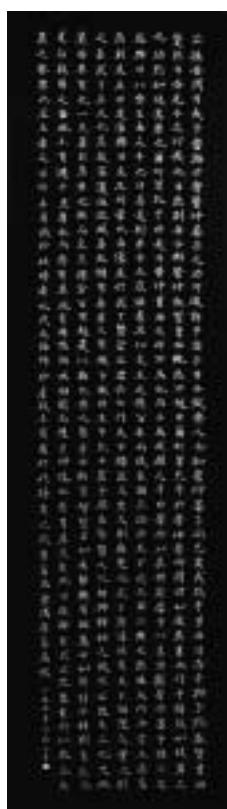
漢字部 竹浪叙舟

- 抽象化していく題名の文字は普通に読めないが、それだけに観者の内面に直接訴えてくるものがある。墨彩も美しい。

「連桜」

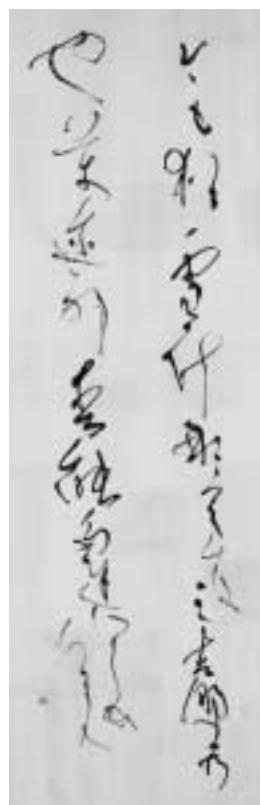
「鍛牛無骨」

- 黒紙金泥の縦九行の小楷が光彩を放つ。褚遂良の雁塔聖教序で鍛えた用筆は搖ぎなく、古典学書の成果としての格調の高さがある。



「心模様」

「早春山」

かな部
大辻多希子

・かな連綿に漢字をにぎやかに書く動きを、かな線で表現し、文字の羅列には漢字とかな合体した不思議な流れを生み出している。

評論家の眼

小野寺啓治の眼



・面で表わす線の表情に、細やかな動きが生きた姿で描かれ、形は繰り返すリズムで広い空間にゆったりとした光の運動を発している。

漢字部
稲垣小燕

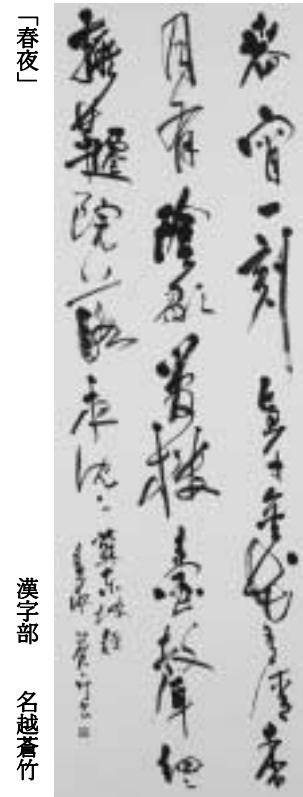
・この靈明を書く背景には、造像記などの方筆で武張った原形があり、そこから飛躍して行意をたたき込み、自分の緊張感を表現する。

「不繫之舟」

篆刻・刻字部 後藤大峰



不繫之舟

漢字部
名越蒼竹

「春夜」

・篆刻で同じ文字を白文で数多く表現する手法は、香川峰雲などに見るが、組み合わせと余白にロマンがあり、白文で集つのも味わい深い。

・行草連綿体でどこにもありそうな書風だが、筆を運ぶリズムには、法をわきまえた確かな手法を自由に使い、これを大胆に表現する。

用紙 半紙普通判
II注

漢字研究部競書作品は、
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる
署名、もじくば
○○臨
(押印のみ可)

〈解説〉

顏真卿は、楷書に篆法を加えたというで注目される人である。その創作的手法は、一種の書道革命であって、その点では晩唐の輝かしい書家の一人である。人生の終わり頃になって初めて篆法を加味し、「顏氏家廟碑・顏勤礼碑」などがその篆法である。

だが、「大唐中興頌」には、決して篆法は入っていない。悠悠堂々たる様は、偉觀と称するのに足る。

大字には、彼自身の細かいテクニックが充分に發揮されるから、用筆法を理解するうえで大事な資料でもある。

(編集部)

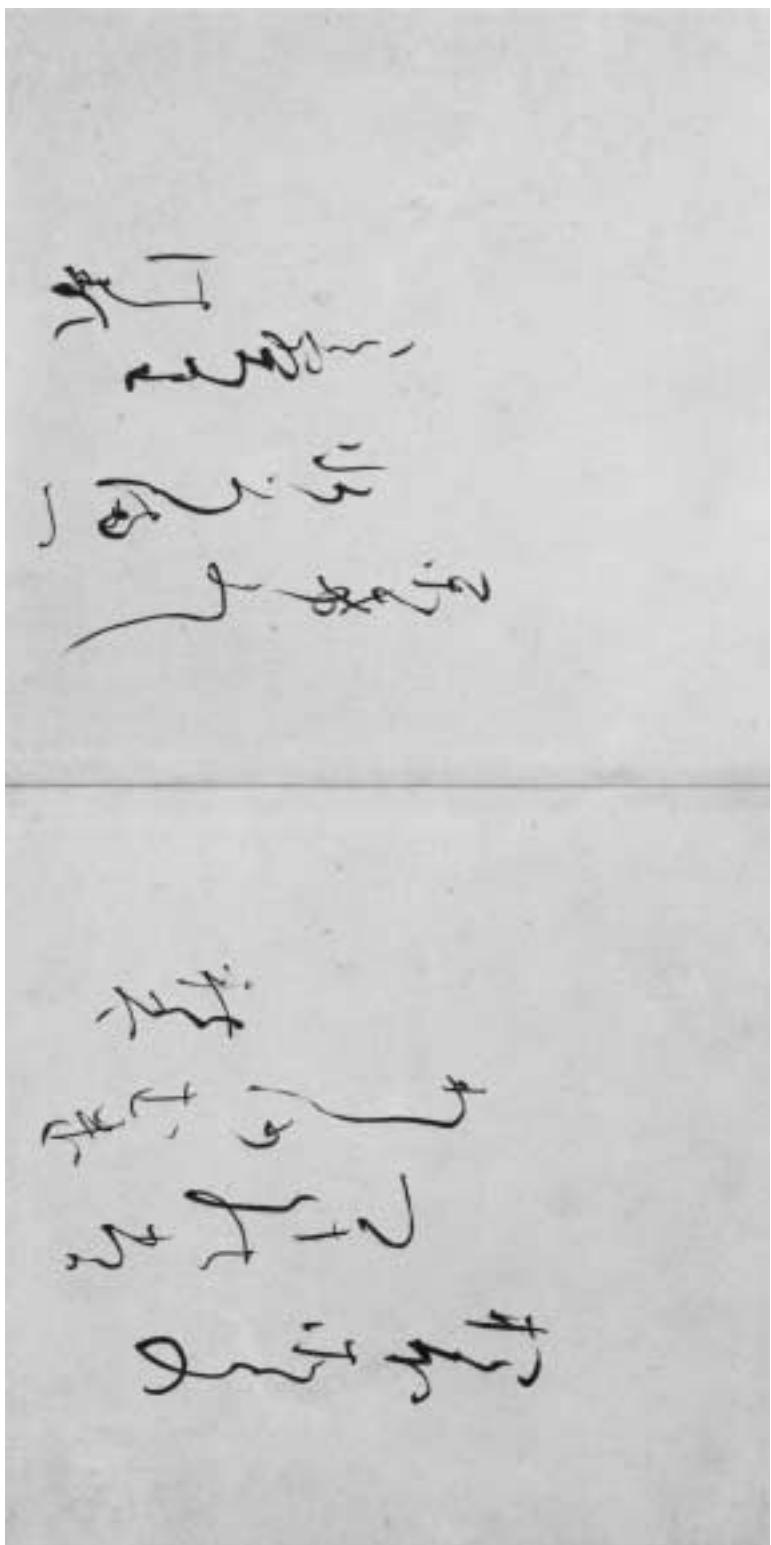


かな研究部

継色紙（伝小野道風）②

※左記の掲載歌一首を書く
用紙・半紙普通判（料紙可）<よい長に使用>
な例として「内面書写」といわれる。
散らし書きの構成と相まって、外の
古筆とは大きく異なる個性を見せて
いる。※落款を必ず入れる。署名、
もじへは〇〇臨
(押印のみも可)

法	×	よこ 13.4 cm	たて 13.5 cm
を継いだ寸	の料紙2枚		



<よみ>

お(於)ほ(本)ぞ(所)らの
つきの(能)ひ(悲)か(可)
り(利)しま(沙)むけ(遣)
れ(礼)ば(盤)

か(閑)げ(希)みし

水ぞ(曾)ま(満)づ
こほ(寶)り(里)
ける(類)

<解説>

継色紙は、もとは寸松庵色紙と同様
に粘葉装の冊子本だが、二つ折りなし
た料紙のその内面の冒開きにのみ文字
を記しているため、古筆の中でも特殊な例として「内面書写」といわれる。
散らし書きの構成と相まって、外の
古筆とは大きく異なる個性を見せて
いる。

(編集部)



習い方解説 (二)

千葉耕風

草香沙暖

(草香ばしくして沙暖かし)

白居易の詩より

今回は十七帖を参考にして書いて見ました。筆は羊毛、中鋒を使い、重厚さをねらい書き上げています。草書は画が省略されているため、点一つでも方向、筆の抑揚等注意して書かないと誤字になり易く大変です。

「香」は上部の禾と下部の日を行書と草書に略さないよう注意してください。死字と言われます。

草香沙暖 よみ（草香ばしくして沙暖かし）

書体＝自由

坐臥隨心
(坐臥心に隨う)

牧 泰濤



①上達のポイント(2)

羊毫筆で力をつける。

柔かいので意のままに筆が動いてくれないと私は思います。だからと

いって即、兼毫や剛毫に換えないことです。易きにつけば、いつまでも経っても、羊毫を使いこなせません。我慢して使い続けましょう。

②今月は運腕大きく、高い位置から起筆することです。筆脈大切。左、右払いはゆっくり大きく書きましょう。

③用筆法に俯仰向背法があります。執筆の掌を俯したり、仰いだりして書く方法。(師匠や先輩に聞いてください)比田井天来は、「温泉銘」や「雁塔聖教序」で俯仰法

の研究と工夫をしたといわれています。この際、唐代の楷書の大家の誰か一人を好きになることです。

坐臥隨心 よみ(坐臥心に隨う)

書体=楷書

習い方解説 (二)

大辻 多希子

短夜の夢にはあらぬ穂高見ゆ
(大島民郎)

半紙に俳句を一句書く場合に、字数が少ないので余白の取り方に注意します。行の構成では、たて長に書く字と横に張る字を大きく入れることによりバランスを考えました。

行頭行尾の働きや、そこから生まれる余白をどのように生かすか、文字の内部の余白との関係は?などに留意しました。

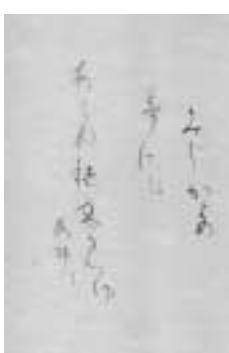
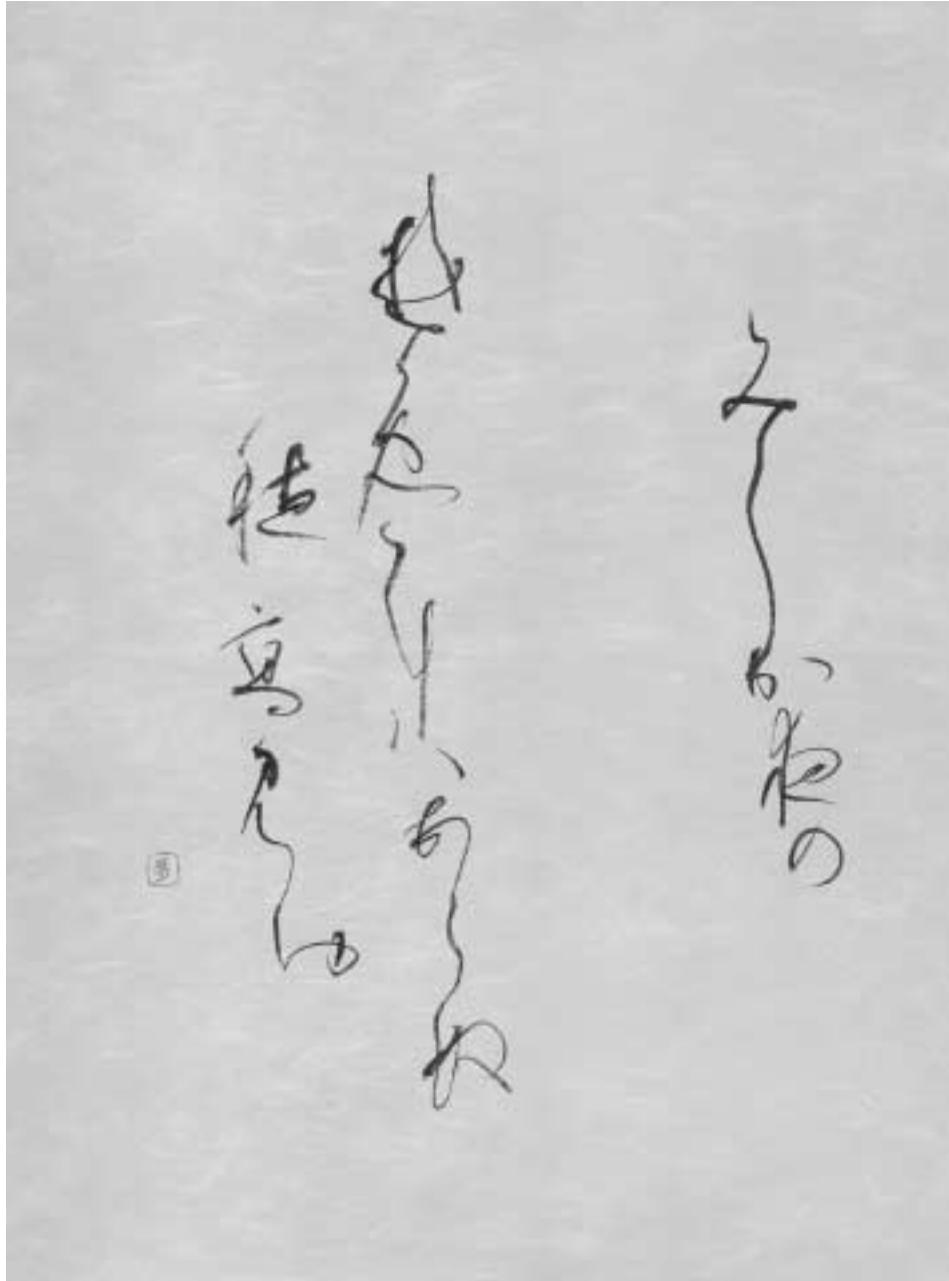
小さくまとまらないよう注意し、また句意を生かすため定型の語句をそのまま一行毎に書きましたが、変体仮名を使わない作品も作ってみてはいかがでしょうか。

参考

よみ方 みじか夜のゆ(遊)め(免)に(耳)は(八)あらぬ穂高見ゆ

創作

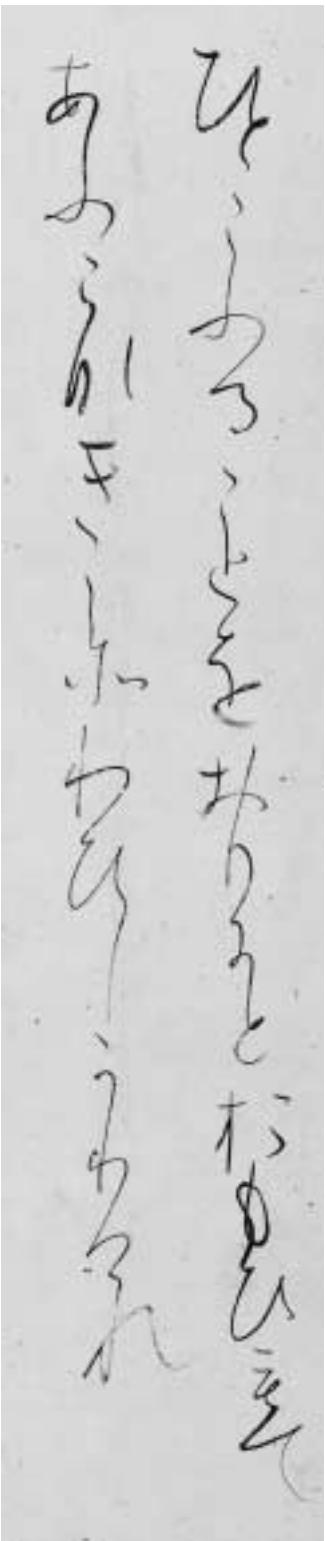
みじかよの夢にはあらぬ穂高見ゆ
民郎句



かな規定 秀級以下【六月二十日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 ひとごふることをおも(元)に(尔)とお(於)もひも(毛)て
あふいな(那)きこそ(所)わびしか(可)り(利)け(介)れ

習い方解説 (二)

石井明子

かな条幅規定【六月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

石井明子選書

なびきよる雲のすがたのやはら
かきけふ富士が嶺の夕まぐれかな
(若山牧水)

横作品は、一行が短く流れを創りにくく、文字数は隣接行と同じになりがちなので、他の要素での変化を求めるものです。余白の形が美しくあるために、幅広の字にデフォルメしたり、墨量が單調にならない配慮をしましょう。

よみ方 な(那)び(非)き(支)よる雲の(能)す(春)が(可)た(多)のやは(者)らか(可)き(幾)
今日ふ(布)じ(十)が(可)ねの夕ま(万)ぐ(久)れ(礼)かな

創作

*よみ方について

「墨を紙に置く」「筆を紙に食い込ませる」ことを考えながら書いてみました。ゆっくり運筆のこと。

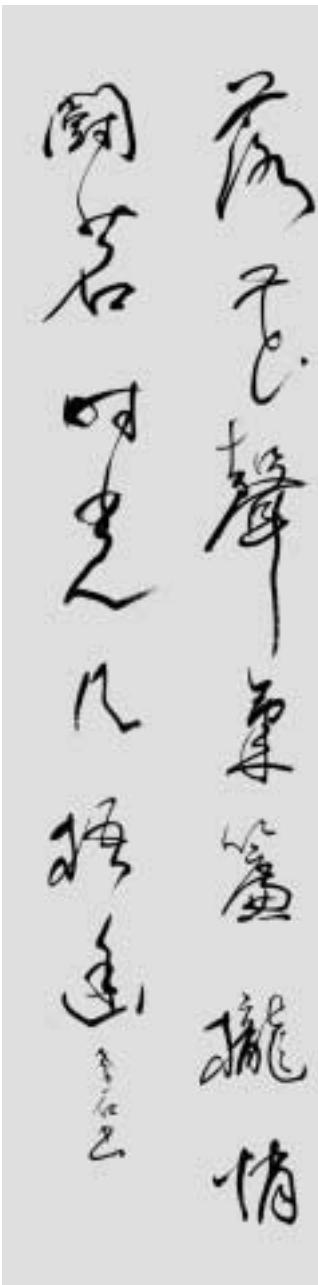
漢字条幅規定 初段以上【六月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

山内孝石選書

習い方解説 (二)

山内孝石

飛び散る花のいきおいは、簾のある窓にはげしく入り、茶会を催すのによい時候が、しづかである。流れを大切に書きましょう。



書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下【六月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

生田翠龍選書

習い方解説 (二)

生田翠龍

詩文は勅勒の歌から。果てしなく拡がる草原に牛や羊が放牧され風が吹き渡っている。楷書確立期の歌です。そこで楷書。ここでは方筆にしてみました。

鋒は露鋒で、押し進めます。起筆はきびしくシャープに。送

筆の角度は一様に。主画の收筆処理は減張を利かせます。筆圧が中心に対しても左右で相称的です。



書体=自由

風吹草低見牛羊
(風吹き草低て牛羊見わる)

六朝無名氏「勅勒歌」

用紙 小画仙紙半切

漢字条幅規定 初段以上【六月二十日締めきり】

習い方解説 (二)

今村菁華

今回は平仮名と漢字を組み合せ、また、それにカタカナを取り入れた課題にしてみました。

万年筆をはじめて買ってもらった日。

少し大人になった様な気分で色々と書いていた頃。丁寧に丁寧に書いていた気持ちを思い出して書きました。

平仮名・漢字・カタカナが少しずつ歩み寄って全体にまろやかな雰囲気に仕上がるようだ。丁寧にノリでも肩の力を抜いて、リズミカルにペンを運んでみて下さい。

※落款を入れ忘れないようにしてください。(落款は自分の名前を入れてください。)

わたしは真赤なりンゴです
お国は寒い北の国リンゴ烟の
晴れた日に箱につめられ汽車
ポツボ町の市場に着きました
リンゴリンゴリンゴ
かわいいひとりごと由美書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

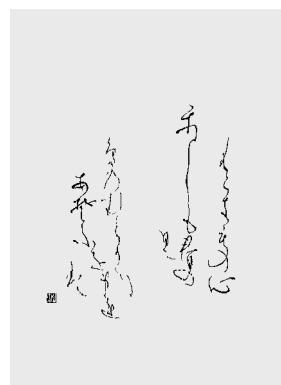
ホープ作品 各部総評

No. 562

かな部 師範 秋山 久枝

参考手本と類似の形式ですが、紙面に対してバランスのよいまとめ方と興味で堂々とした作品です。

◎かな部総評 大変難しい形態でしたので、書く位置や字の大きさの把握がなされず調和に欠け、疑問を多く残しました。（洋子評）



かな条幅部 準師範 津久井靜江

かな美の重要な要素、余白を心

憎いばかりに把握し、控えめで静かな作品に仕上げた力量は美事。

◎かな条幅部総評 字を書くことのみに拘わらず、歌意に添う表現にも配慮しましょう。かな独特のデフォルメに要注意。（明子評）



現代詩文書部 特選 荒木 孫功

書き出し前の詩文に対する想いを表現した気迫のこもった作品。線質も強くリズム感、余白も良。

◎現代詩文書部総評 書いてみたいた詩歌との出会いは心躍るもの、書線を忘れず書込みを。（堂光評）



前衛書部 特選 梅山 久子

少し荒っぽい感じに見えるがそれが外へ広がる勢いになった。大きな空間バランスも魅力的です。

◎前衛書部総評 個性を出す集中する心が生き生きとした線となり多く表現されている。（蕙芳評）



漢字条幅部 師範 横井 正江

蔵峰のうごめく線に豊かな情感を込めて堂々と押し切って余白を生かした力感のある作。

◎漢字部総評 筆先を遊ばせても点画の整理ができず軽薄な作が目立った。筆力がリズムに乗って生き生きとした活動を。（春洋評）

漢字条幅部 師範 小沢 泉佳

張瑞図の氣風を取り入れ、歯切れよい筆致でリズムを醸し出す。潤渴のバランスもよい。

◎漢字条幅部総評 課題の訂正間に合わせてそのまま両方を探りましめた。草書の字形に難点あるもの散見。字典での確認を。（大雪評）



ペン字部 特選 石井 光子

漢字、ひらがなの調和もよく、力強くしっかりした線で隙のない美事な運筆で堂々の作品です。

◎ペン字部総評 かなと漢字の調和、流れに難点あり、漢字はかなに合せて、かなは流れすぎないことが大切です。（蒼玄評）

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

現代詩文書

加藤紫翠

(翠柳)

「一穂の詩より」



加藤紫翠書

135×35cm

前書

大友紅容

(蓮紅)

「青野(あおの)」



大友紅容書

135×35cm

- ◆墨色と全体の流れが統一されていて鑑賞者に一際楽しさを与えてくれる。淀みのない線の流れが半切の長さに統一されているのが楽しい。
(倫子評)
- ◆墨色の美しい爽やかな作品です。こんなにも大きな運動が、この静けさを生むなんて? 墨の可能性をさまざまに想像させられて楽しい作。
(明子評)
- ◆線冴えて躍動し、墨色、構成共に見事、明るく完成された作と拝見した。逆に小じんまりとまらないよう大きめの運動が、この静けさを生むなんて? 墨の可能性をさまざまな想像させられて楽しい作。
(春洋評)
- ◆大胆な運筆で上部から下部へリズムを通貫し、左右に展開する振幅の大きさが魅力的な作。上部の飛墨が効果を發揮している。
(大雲評)

(倫子評)
(春洋評)
(大雲評)

前 現 か 漢 惠 雅
漢 惠 雅
前 橋 板 橋 雅 邦
玄 穀 鐘 木 梅 道
墨 宣 鐘 木 梅 道
大 雲 尾 形 梅 道
炎 佳 錠 井 弘
佐 藤 阿 部 惠 泉
佐 々 木 豊 華 炎
吉 田 深 井 弘
蜜 波 羅 豊 華 炎
鳳 雲 幸 右 紀 子
幸 石 真 理 華 炎
春 景 由 紀 子
三 村 大 庭 行 德 四 谷
大 拙 う る 東 実 翠 苑
行 德 う る 東 実 翠 苑
四 谷 三 村 春 景

前 19、篆 3) 大きい作品に、研究の成果を発表することにより次の段階に進むことができる。ふるって出品を。
今回は 85 点 (漢 19、か 9、現 35、篆 3) 大きい作品に、研究の成果を発表することにより次の段階に進むことができる。ふるって出品を。
(蒼子)

△ 特選候補者 △

総評

かな (舎人)

高橋小汀

「さくらばな…」



大隅晃弘刻

〈原寸大〉

篆刻

(千葉) 大隅晃弘

「自我作古」

◆前号の細線朱文印に続いての特選。白文の刀意の冴えを評価したい。古の縦画の位置はやや不安定に感ずる。縁の撃邊も少々作りすぎ。(大雲評)

◆線の表現にいろいろの動きがあつて楽しい作品になった。この動きを廻りの線にも表わして欲しかった左の線が少し強く直線すぎた感あり。(倫子評)

◆最近、多くの古い篆刻作品に接しました。引き込まれる世界と感動したところでした。同質の深さ、美しさ、印泥の色の力を見ました。感謝。(明子評)

◆单体行書、丁寧で悠々と最後まで書き抜いて品よく安定しています。この余韻のある静かで豊かな心境を大切にしてください。(春洋評)

◆中細字三行を品よくまとめる。適度な潤渴の変化が静かなりズムを奏でて妙。唯呼吸の小ささが眼につくところもあり大きな運筆を望みたい。(大雲評)

◆丁寧な運筆で、一字ずつが美しい。ズバリと刀を入れて大胆な刻を、期待しています。構成はその次か。(春洋評)



高橋小汀書
180×60cm

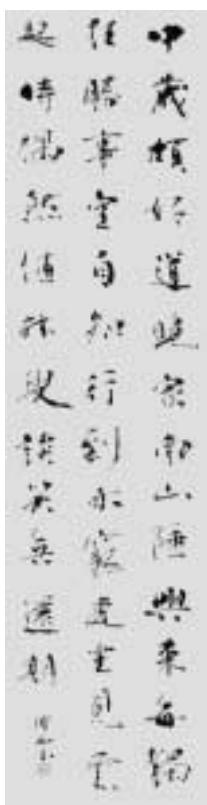
◆余白の白さがリズミカルな細線で鮮明に映え、爽やかな作。軽妙な筆づかいは時として浮薄さを伴う。特に渴筆部の厳しさを求めたい。(大雲評)

◆小さな字の集りを大きな紙に表現しても淀みのない一貫した流れを感じさせてくれる。手先の仕事でなく作品に深さが加わると期待します。(明子評)

漢字
(大雲) 長島僊雨

「中歳頗好道…」

長島僊雨書



135×35cm

漢字研究部
(雁塔聖教序)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品

者以爲無形也

鶴田恵子

◎漢字研究部總評

雁塔聖教序は表面的に形や運筆の「らしさ」

始筆から終筆に至るまで弛みなく響きの高い線質が心地よい快作。原帖の、細いながらも強靭な線をよく捉えている。筆先の利かせ方(毛の弾力の生かし方)が巧みでなければ、このように繊細かつ強靭な線は書けない。

漢字研究部 特選 鶴田 恵子

用筆(俯仰法)によって字形に自然な「ゆがみ」が生まれてることを踏まえて臨書しようとすると、形と線質の両立は相当難しい。この点、上位者はどう形と質の両立を意識していることが伺えたことは審査していく頼もしく感じられた。選外となった作品は両立の意識が弱いか、原帖に対する理解そのものが不足していると思われ、今後に期待したい。



律松匡史妙秀
子春子簷邨子

佐雅信彩響白
和子芳代雨神香

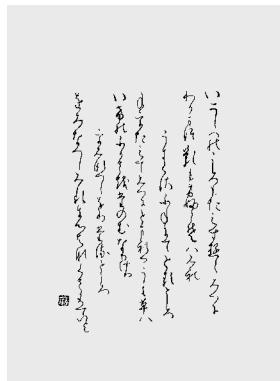
初桂志節杏良
津江香子苑仙子

文一詠箕清翠
江紅子城耀葉

か な 研 究 部
(伊勢集)

選評 山 藤 美和子

今月のホープ作品



高橋雅泉

◎かな研究部総評

特徴のとらえやすい古筆なので、よく出来た作が多く見られましたが、やはり誤字が目につきました。
（楚）代（越）分かりにくい字は調べてください

かな研究部 特選 高橋 雅皇
伊勢集の端正で、よくしまったうるおいのある娘をよくとらえた丁寧でよく書きこまれた正確で美しい臨書です。

桂律睦

晃英美
代子紅

節敏美代子子子

楊美皓
佐枝泉
風

か な 研 究 部 成 績 表		評	
前A 書も八大五 橋 I 泉く街葉秀 碓伊伊新足朝秋 井藤藤井助倉山 寿則唐実爽久 弘子子雪枝陽枝	春大正椿卯大こ智大秀松霜正五椿正玉東仙椿洞正石竜 月汀雲華翠月雲だ阪水村月華葉翠華松小台草翠書華習泉	特選	よくしまったうるおいのある線 でよく書きこまれた正確で美しい 古筆なので、よく出来た作が やはり誤字が目につきました ばかりにいい字は調べてください
卯月 佳	生椿硯五東澄京秀千北正秀五も玉春紅東喜誠治硯湘春生書湘東竹彩秀明東 大翠水葉小春橋水葉陸華水葉く葉汀瑤岳栄和田水南汀大泉南光扇 水漢総		
天野 あいこ 作 (50音順)	山百宮真松増堀福花西永富都戸戸遠辰高砂鉈新嵐柴佐佐作坂小木岸門小薄 口野澤庭田川島田岡井部山木本木川木谷本藤々草木と昭路沿怡東信和春 タク敏魯歌艶悦宏泰どり悦希光合疏史翠翠翠訛和忠しそを子子		